

食品ロスの現状（令和元年度）

- 日本でまだ食べられるのに捨てられる食品
年間 約 570 万トン
- 食品関連事業から
年間 約 309 万トン

フードバンクとは

賞味期限が近付いてきたり、包装不備（箱の破損や印字ミスなど）や季節商品の切り替えや廃盤などで流通できない食品、災害備蓄品などを企業・団体等から寄贈していただき、食品の支援を必要としている福祉団体・施設に無償で提供する活動です。

フードドライブとは

各家庭で余っている食品を持ち寄り、それらをまとめて提供する活動です。社内で呼びかけたり、お客様に案内してイベントや展示会の会場に持参してもらうなどの取り組みが広がっています。

寄贈をお願いしたい食品

- 賞味期限が 2 か月以上あり
 - 常温保存できる食品
- ※ 冷蔵品・冷凍品は別途ご相談ください。

食品を寄贈するメリット

1. 廃棄コストの削減

食品廃棄にかかる運搬費、処理費やリサイクル費用等の経費を削減することができます。

2. 潜在需要の掘り起こし

フードバンクを通じて食品が提供され、多くの人に食べてもらうことで、商品のおいしさを知ってもらうことができます。

3. 環境負荷の低減

食品を廃棄することによる CO2 排出の削減ができ地球温暖化防止に貢献できます。

4. 企業価値やイメージの向上

子どもの健全育成や社会福祉に貢献する CSR 活動としてだけでなく、SDGsに取り組んでいることをアピールすることができます。

5. 税制上の優遇措置

フードバンク団体への食品提供は税制上も全額損金処理が可能です。



農林水産省 HP

- ・お菓子 ・缶詰 ・びん詰 ・調味料
- ・お米、ホットケーキミックスなどの穀類
- ・インスタント食品 ・レトルト食品
- ・飲料 ・離乳食 ・介護食など

企業・団体様からの寄贈事例

清水建設（株）北陸支店 様

社内で災害発生時用に備蓄している食品の中から賞味期限が半年ほどに迫った食品を順次寄贈していただいています。災害備蓄品もバラエティに富んだ品揃えとなり、コロナ禍で緊急に支援が必要な方にお渡しする食品として活用されています。

ツエーゲン金沢 様

石川県のプロサッカーチーム「ツエーゲン金沢」では、選手達の募金で購入した食品を月1回寄贈する他、活動に賛同したスポンサー企業からの支援も相次いでいるそうです。また、ホームゲームではサポーターにも呼び掛けてフードドライブを実施されています。

（株）米心石川 様

テレビのニュースで当会の活動を知り、スーパーなどに納品する精米のうち、米心石川からの出荷期限を超えるもので品質に問題がないものを寄贈していただきました。以後、定期的に届けていただき、各団体が行っているフードパントリー（食品お渡し）でとても喜ばれています。

（株）ホリ乳業 様

大雪で幹線道路が不通になり、納品できなくなったヨーグルトを寄贈いただいたご縁で、賞味期限が近いなどで販売できなくなった商品を、こども食堂や児童館に拠点配送していただいています。食べた人がファンになる副次効果もあるようです。

● 日本の貧困率
15.4%

● 子どもの貧困率
13.5%

（2018年国民生活基礎調査 相対的貧困率）

働いても生活が苦しい、仕事を失った、お金がない。。。格差や貧困が広がる中、新型コロナウイルスの影響により生活に困窮する世帯も増えていると言われています。生活に困窮している方などの支援活動や、あたたかい食事と安心できる居場所を提供する子ども食堂等の取り組みが、石川県内でも広がりを見せています。しかしながら多くは善意に基づくボランティアな活動によって運営されており、財政的基盤の弱さや社会的認知度の低さが課題となっています。 当会では、そうした活動が安定的に持続できるよう、県内のネットワークで後方支援を担っていきたくと考えています。

2020年度 いしかわフードバンク・ネット実績

● 寄贈食品
 フードバンク **14.90t**
 フードドライブ **4.28t**
 合計 **19.18t**

● 食品提供
 73 団体
 のべ **425 回**



食品受取団体（福祉団体等）からのメッセージ

NPO 法人子育て支援はぐはぐ そのままでいいよ

子育てを支援するさまざまな事業を行っています。見守り支援事業では月2回、いしかわフードバンク・ネットからの食品にプラスして果物や生活雑貨を購入してお届けしています。

信頼関係ができ、お話をお聞きする中から関係機関に繋げることができています。令和4年度から子ども食堂もはじまります。



こまつこども食堂

「ひとりじゃないよ！子どもから大人まで！みんなで一緒におなかいっぱい！」

小松市内では現在9ヶ所の地域で、各特色を活かし活動しています。コロナ禍以降は皆で会食ができなくなりましたが【コロナ禍だからこそ！】手作りのお弁当を配布し、フードパントリー（食品のお渡し）を続けています。これからも「地域に一つの食堂」を目指し、いただいた食品をシェアしてまいります。

石川県母子寡婦福祉連合会

約1,000名の会員を支え、ひとり親家庭の生活の向上と児童の健全育成を図る事業を行っています。シングルマザーの場合、養育費をもらっている割合は25%というのが実態です。いしかわフードバンク・ネットからいただいた食品は、食の支援登録者56名にLineでお知らせし、希望者に受け取りに来てもらっています。コーヒーやお菓子は、月1回の「おしゃべりカフェ」でも活用しています。



金沢市社会福祉協議会

生活に困窮されている人の相談支援を行っています。相談窓口には、「電気・ガスが止められそう」「家賃滞納で強制退去になる」「お金も食べ物もなくなった」といった切迫した状況の相談も寄せられています。一時的な食糧の提供と合わせて、生活再建に向けた生活相談・支援を行っています。フードバンクのおかげで、支援の幅が広がり、緊急的な食糧支援にも対応できるようになりました。